

## 2020年度は小児科受診患者数が激減 各種感染症患者の減少が大きな要因

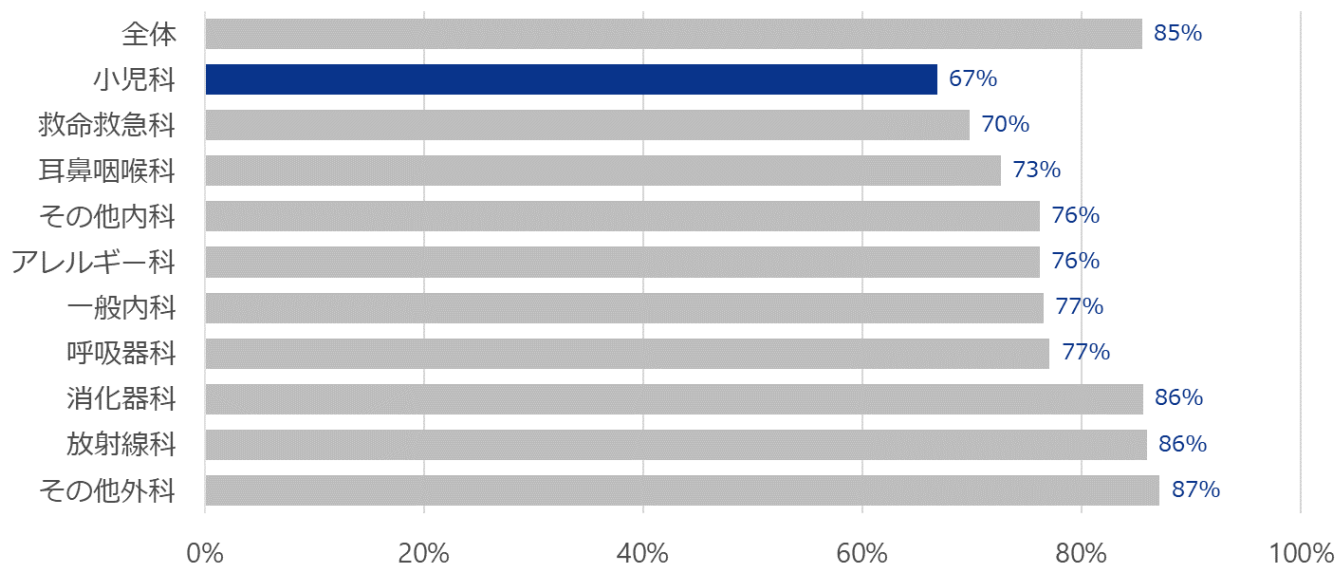
医療情報サービスを手がける株式会社医療情報総合研究所（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：佐藤 暢章、以下 JMIRI）は、独自に運用する院外調剤レセプトおよび保険者レセプトのデータを基に、新型コロナウイルスの感染拡大が処方に与えた影響を調査・分析しました。

2020年1月15日に国内で初めて新型コロナウイルス感染者が確認され、1年以上経過した現在も終息は見えません。厚生労働省が2020年2月28日に行った、電話や情報通信機器を用いた診療や処方箋の取り扱いに関する事務連絡<sup>※</sup>以降、一回当たりの処方日数の増加が見られるようになり、4月7日に「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言」（以下 緊急事態宣言）が発出されると、5月25日に全面解除されるまで医療機関を受診する患者は大幅に減少いたしました。その後も新規感染者数は増減を繰り返し、医療機関の受診患者数も増減を繰り返しています。今回は新型コロナウイルスの感染拡大に大きな影響を受けた「医療機関の受診患者数」について、2020年度のデータを俯瞰し、コロナ禍の影響を最も受けた部分を明らかにしていきます。

### 1. 小児科の受診患者数が大幅に減少

2020年度(2020年4月～2021年3月)に医療機関を受診した患者数は前年同期比で15%減少(85%)しました。診療科別では小児科の減少率が大きく、前年同期比で33%減少(67%)しています。受診患者数の減少により経営が悪化している小児科も見られ、厚生労働省が2020年12月15日に行った「新型コロナウイルス感染症に係る診療報酬上の臨時的な取り扱いについて(その31)」の事務連絡で、6歳未満の乳幼児に対して特に必要な感染予防策を講じた上で診療を行った場合、追加で点数を算定することが出来るようになるなど特別な対応がとられました。20代以上の感染者が多い新型コロナウイルスですが、なぜ最も影響を受けた診療科が小児科だったのでしょうか。

## ■診療科別患者数の前年同期比(2020年度)



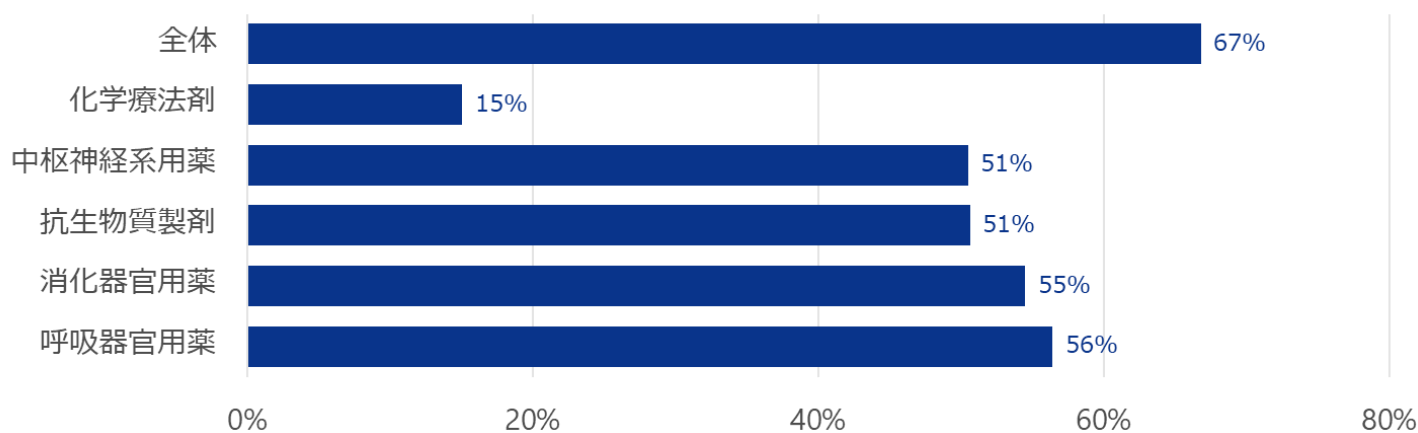
株式会社医療情報総合研究所 院外調剤レセプトデータ

JMIRIの全診療科(30種)より2020年度の前年同期比が低い10診療科を抽出

## 2. 感染症の患者数が減少

小児科の患者数を薬効分類別に見ると、化学療法剤が85%減(15%)、中枢神経系用薬、抗生物質製剤、消化器官用薬、呼吸器官用薬が約50%減となりました。化学療法剤や抗生物質製剤は抗ウイルス薬や抗菌薬、中枢神経系用薬は解熱鎮痛消炎剤、呼吸器官用薬は去痰剤や鎮咳薬などが減少しており、一般的な風邪を含めた感染症患者が減少したことが示唆されます。具体的にはどのような感染症が減少したのでしょうか。

## ■小児科における薬効分類別患者数の前年同期比(2020年度)



株式会社医療情報総合研究所 院外調剤レセプトデータ

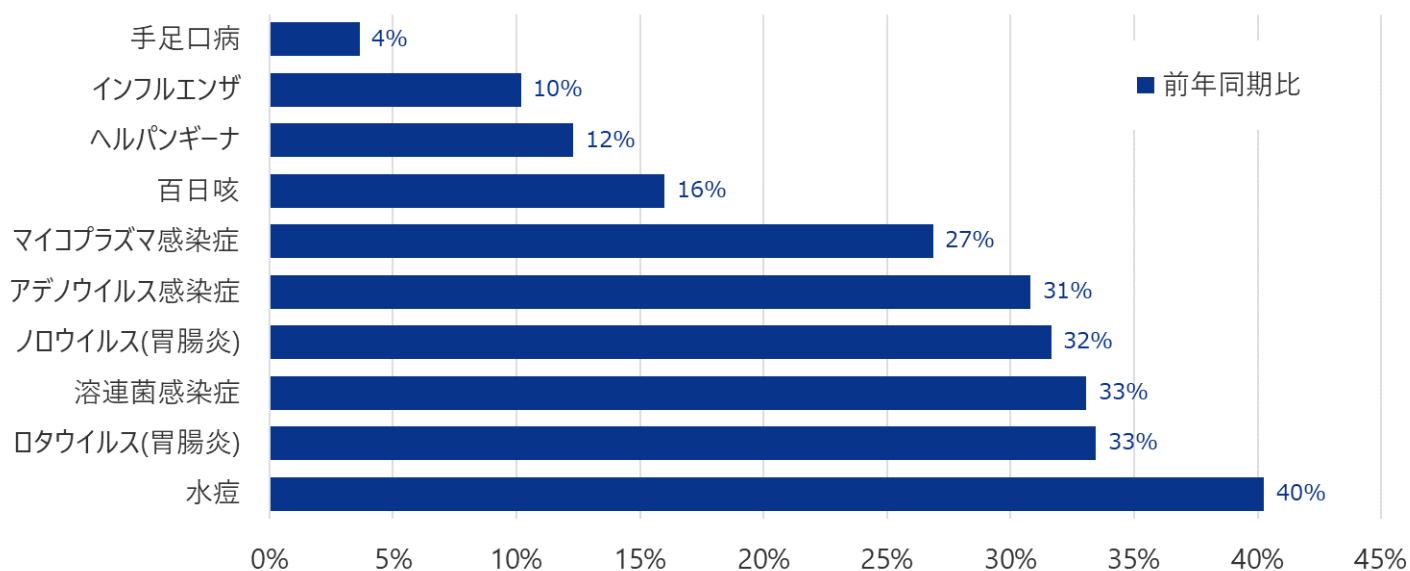
JMIRIデータベースで小児科における2020年度の患者数が1000人以上の薬効分類のうち、前年同期比が低い5つを抽出

### 3. 日和見感染症は患者数の減少が限定的

傷病名を確認できる保険者レセプトデータを用いて、夏場(2020年7月～9月)の小児科における感染症患者数の前年同期比を感染症の種類ごとに見ると、軒並み患者数が減少しており、最も減少率の高い感染症は手足口病で96%減(4%)となりました。夏に感染者が増加する感染症であるヘルパンギーナやアデノウイルス感染症も昨年は感染が抑えられていたようです。

一方、前年と患者数が大きく変わらない感染症も見られました。サイトメガロウイルス感染症、深在性真菌症、突発性発疹症、ニューモシスチス肺炎などがその一例で、これらは母子感染や日和見感染により発症するとされており、新型コロナウイルスに対する一般的な感染症対策の効果が出にくかったことが示唆されます。

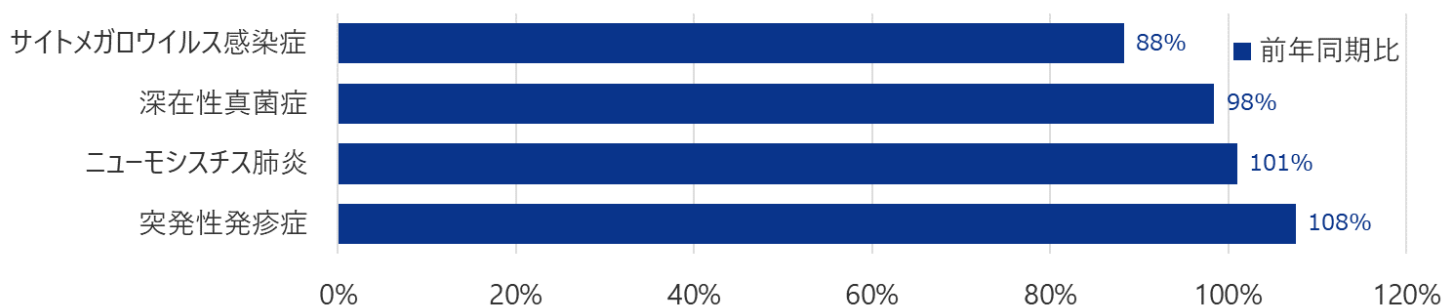
#### ■小児科における感染症別患者数の前年同期比(減少率の高い感染症)



株式会社医療情報総合研究所 保険者レセプトデータ

小児科における2020年7月～9月の前年同期比が低い10感染症を抽出

#### ■小児科における感染症別患者数の前年同期比(減少率の低い感染症)



株式会社医療情報総合研究所 保険者レセプトデータ

小児科における2020年7月～9月の前年同期比の減少率が低い4感染症を抽出

2020 年度は夏に患者数が増える手足口病、ヘルパンギーナ、アデノウイルス感染症(プール熱)のような季節性感染症から1年を通して感染者が出る百日咳のような疾患まで感染者数が減少しました。いずれも飛沫や接触によりウイルスや菌に触れることで感染する疾患であり、手洗いうがいやマスク着用の徹底、ソーシャルディスタンスにより減少したことが考えられます。しかし、マスクの着用やソーシャルディスタンスのキープするのが難しいと考えられる幼児の間での感染減は興味深い事実です。毎日の検温や体調チェックをすることにより初期症状を把握しやすくなり、登園・登校を自粛することが感染拡大を防止することにつながっているのでしょうか。

2021 年度も新型コロナウイルスによる影響が当面続くことが予想されるため、引き続き様々な角度から動向を注視していきます。

※「新型コロナウイルスの感染拡大を防止する観点から、慢性疾患等を有する定期受診患者等について、当該慢性疾患等に対する医薬品が必要な場合、感染源と接する機会を少なくするため、一般的に、長期投与によって、なるべく受診間隔を空けるように努めることが原則である」（「新型コロナウイルス感染症患者の増加に際しての電話や情報通信機器を用いた診療や処方箋の取扱いについて」厚生労働省医政局医事課・医薬・生活衛生局総務課の2020年2月28日付け事務連絡）

本件に関するお問い合わせ先

---

株式会社医療情報総合研究所 企画開発部 鹿島田

Eメール: [cs@intage.com](mailto:cs@intage.com) Tel:03-5294-5990

株式会社医療情報総合研究所 会社概要

---

会社名 : 株式会社医療情報総合研究所 (略称: JMIRI/ジェイミリ)

所在地 : 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 4-6 御茶ノ水ソラシティ 13 階

代表者 : 代表取締役社長 佐藤 暢章

設立日 : 2005 年 7 月 14 日

資本金 : 1 億 8,825 万円 (株式会社インテージヘルスケア 100%出資)

事業内容 :

当社は 2005 年に設立以来、「患者中心の医療・健康情報ネットワークに基づく患者指向のマーケティング支援」をコンセプトに、医療情報 (処方情報、患者情報、医師・薬剤師の声) の収集、解析、および提供・販売を行っております。

2020 年 7 月、インテージグループ内にある医療用医薬品関連のファクトデータ事業を JMIRI に集約。今後、新たなソリューションの開発に注力してまいります。

URL : <https://www.jmiri.jp/>

---